

こんにちは、虹色通信(なないろつうしん)です。

こんにちは、いつもお世話様です。虹色通信(なないろつうしん)です。今年は梅雨と言っても空梅雨の感じがします。このまま梅雨が終わってしまうのではと、感じさせる天気が続いています。私達のように、外で働く者は天気が続いてもらった方がありがたいですが(笑)。もう6月も終わりになり、7月(夏)が待っています。今年も暑いといいですね？

さて25回目のお話を始めたいと思います。今回も前回に引き続き、「水回り商品」についてお話したいと思います。今回はお話通り、システムキッチン・洗面台・トイレについてお話します。

システムキッチンも、ユニットバスと同様にめまぐるしい進化を遂げています。特徴をいくつか挙げてみましょう。今回も松下電気さんの商品を参考に、お話します。

まずは、収納力がここ数年で格段に上がった事です。その大きな要因は、今まで台輪(だいわ)と呼ばれた一番下の部分が、ただ台で空いていたのです。そこを収納として使用できるようになった事です(写真1・2 下のグレーの部分)。ここの引出しだけでも缶ビール24本入りの1箱が、そっくり入ってしまいます。また、水槽部分のトラップ(排水マス)を後ろ側に配置し、収納スペースをなるべく確保できるようにしました。前は水槽下の引出しを開けると、トラップが真ん中にあり、鍋を入れたりするのに邪魔でした。それが後方に移動した事によって、かなりの収納スペースができました(写真3)。今は収納力が他メーカーとの競争の一つにもなっていました。

2つ目の特徴として、ガス調理器からIHクッキングヒーターへの需要の増大です(写真4)。IHは今や調理機器全体の5割以上の需要に達する勢いです。IH調理器の一番の利点は、火が出ないので火事にならない点です。火が出ないので、天ぷらを調理する際、鍋の下に新聞紙を引いても、火ではないので燃えないのです。しかも油はねは、新聞紙でカバーしてますので汚れません。危険な天ぷら油も、高温になれば自然に温度を下げてしまいます。魚焼きも裏返ししなくても焼ける両面グリルで、自動焼きはプロが調理したように美味しく焼けます。換気扇はIHに連動して動き、高出力になる程、風量が多くなるシステムです。

その他にも、少量の水で手で洗うより食器が綺麗になる、食器洗い乾燥機(写真5)や、収納スペースの少ない場合でもスッキリ収まる電動昇降食器乾燥機(写真6)等、他の装備も充実しています。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

M-ONE HOME

集い(つどい)

(株)モリケン

TEL:(0268)68-2225

FAX:(0268)68-2196

森田携帯(090)2215-8356

URL: <http://www.moriken-motto.com> E-mail: mail-info@moriken-motto.com

次は、装備の項目の他に、少し細かいところまでお話ししたいと思います。(写真7)をご覧ください。

吊り戸棚内の拡大写真ですが、左上の白い部品が地震の際に、効果を発揮するのです。これが地震の震動の際、銀のパチンコ玉みたいなのが入っていて、揺れると玉が動いて、扉の方の部品に引っ掛かり、ロックされる仕組みです。これも平成7年に発生した、阪神大震災以降のシステムキッチンに取り付けられています。その他にも、蛇口のレバーも震災前には上げて止めるか、下げて止めるか、統一されていませんでした。震災後には、下げて止められるように統一されました。これは万が一、物が落ちて水が出続けないように統一したのです。このように、細かいところまで、改良されているのです。

洗面台は、昔の「手洗い」から「ドレッサールーム」のイメージに変化しました。単なる顔を洗ったりひげを剃ったり、歯を磨いたりするスペースから、お化粧品も含めた空間と捉えられるようになってきました。ですから家の間取りの中で洗面所ではなく、ドレッサールームとした、独立した1室と計画される方もいらっしゃるようです。それだけ、重要視されてきています。

今の最新の機能をお話します。今は洗面台の上から温風が出て、部屋全体を暖める機能や、曇り止めスイッチを入れなくても、特殊な薬品でコーティングされた、曇らない鏡等があります。(写真8)のように、デザインを兼ね備えた洗面台もあります。



写真7



写真8



写真9

トイレについてですが、主だって大きな変化はないのですが、最近の流行として、後ろの水を溜めるロータンクが別に出っ張らず、本体と一体になったタンクレスモデルが増えています(写真9)。これはデザイン上、スッキリ収めるのと共に、少量の水でも流れるシステムを採用しているからです。これは小さい、プラモデルに使う位のモーターを使い、電動で強制的に排水させるシステムを採用しています(写真10)。このシステムを採用する事により、通常約60%の水の節水が実現しました。しかも流す際の騒音が通常、約70dB(デシベル)に対し、約55dBと静かです。55dBの音は、日常的な音で、深夜に70dB以上の音は、不快に感じられると思います。たかが便器と思いがちですが、機能とデザインを兼ね備えた便器を採用されるのも一つだと思いますが、いかがでしょうか？

また、(写真11)の壁付け手洗いは、前からありますが、これも壁の厚みを最大限に利用した器具です。幅は間柱(まばしら)の間で、壁厚に収まります。手洗いの上の物入は、トイレットペーパーが10個以上も入りますので、馬鹿にできません。このように、狭いスペースを上手に利用した器具もございますので、またご紹介したいと思います。



写真10



写真11